

英 語

発行者			教科書の記号・番号	判型 総ページ数	検定済年
番号	名称	略称			
2	東京書籍	東 書◆	英語 002-72・002-82・002-92	A 4 486	令和 6 年
9	開隆堂出版	開隆堂◆	英語 009-72・009-82・009-92	A 4 514	
15	三省堂	三省堂◆	英語 015-72・015-82・015-92	A 4 532	
17	教育出版	教 出◆	英語 017-72・017-82・017-92	A B 546	
38	光村図書出版	光 村◆	英語 038-72・038-82・038-92	A B 582	
61	新興出版社 啓林館	啓林館◆	英語 061-72・061-82・061-92	A 4 490	

※「発行者 略称」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示しています。

	発行者の番号 略 称	2 東 書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教 出	38 光 村	61 啓林館
内 容	日本の文化・伝統を扱っている教材数	11	6	8	8	7	9
	SDGsを扱っている教材数	16	17	10	14	10	13
	自然・科学、環境を扱っている教材数	5	12	3	7	3	8
	「聞くこと」に焦点を当てた活動の数	55	171	176	109	192	202
	「読むこと」に焦点を当てた活動の数	116	106	100	162	98	103
	「話すこと[やり取り]」に焦点を当てた活動の数	90	106	75	85	109	132
	「話すこと[発表]」に焦点を当てた活動の数	49	22	38	45	54	27
	「書くこと」に焦点を当てた活動の数	73	94	84	36	86	109
	複数の領域を統合したものに焦点を当てた活動の数	9	9	9	9	9	32
構 成 上 の 工 夫	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫 (単元構成上の工夫等)	・各単元冒頭での目標 (「GOAL」)と単元の内容に関する「目的・場面・状況」の提示、単元末での自己表現活動となる「Unit Activity」の設定、複数単元学習後の「Stage Activity」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「CHECK」(振り返りの視点を示したものの)、「Stage Activity」に設定された「CAN DO CHECK」振り返り、巻末の「CAN-DOリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標 (「GOALS」)の提示、単元末での自己表現活動となる「Action」の設定、複数単元学習後の「Our Project」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「できたかな? GOAL」(振り返りの視点を示したものの)、「Our Project」に設定された振り返り、巻末の「CAN-DOリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標となる活動 (「Goal Activity」)の提示、単元末での自己表現活動となる「Goal Activity」の設定、複数単元学習後の「Project」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「ふり返り」(振り返りの視点を示したものの)、「Project」に設定された「ふり返り」、巻末の「What Can I Do?」(Can-Doリスト)により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標(「Goal」)の提示、単元末での自己表現活動となる「Task」の設定、複数単元学習後の「Project」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「Lesson ～をふり返ろう」(振り返りの視点を示したものの)、「Project」に設定された「Project ～をふり返ろう」、巻末の「Can-Do 自己チェックリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標(「Goal」)と単元の内容に関する「目的・場面・状況」の提示、単元末での自己表現活動となる「Goal」の活動の設定、複数単元学習後の「You Can Do It!」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「Goal ふり返り」(振り返りの視点を示したものの)、「You Can Do It!」に設定された「Goal 学期のふり返り」、巻末の「CAN-DO List」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標(「Unit Goal」)の提示、単元末での「Think & Speak」「Think & Write」(自己表現活動)の設定、複数単元学習後の「Project」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「Check」(振り返りの視点を示したものの)、「CAN-DO List」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。
	小学校外国語科との円滑な接続のための工夫 (小学校で学習した語彙や表現の扱い方等)	・第1学年では小・中接続単元を設定(P6-10)するとともに、Unit 4までは小学校の活動を振り返るとともに、小学校で聞いた話したりした単語や表現が中心となっている。 ・各学年巻末の「Word List」(語彙リスト)には、小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、「小学校の単語」を一覧にして示している。	・第1学年では小・中接続単元(P7-20)において、新しい仲間へのインタビュー等の英語によるやり取りや、英語の語順を理解する活動など、小学校での学習内容を踏まえた活動を設定している。 ・各学年巻末の「単語と熟語」(語彙リスト)の一覧には、小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、「小学校で学んだ単語」を一覧にして示している。	・第1学年では小・中接続単元(P7-17)を設定するとともに、小学校で学んだ語や表現を一覧にした「My Dictionary」を掲載している。Lesson 4までは小学校で学んだ言語材料を振り返りながら整理し、活用できるようにしている。 ・各学年巻末の「単語の意味」(語彙リスト)には小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、小学校で学習した語には記号を付けて示している。	・第1学年では小・中接続単元(P6-17)を設定するとともに、Lesson 2までは小学校で学んだ表現を多く使用している。 ・各学年巻末の「Word List」(語彙リスト)には小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、「小学校の発信語」を一覧にして示している。	・第1学年では小・中接続単元(P6-19)を設定するとともに、Unit 3までは本文を漫画のセリフ形式にするなど、生徒が徐々に英文に慣れていくよう構成している。また、巻末に小・中接続単元で使われている語の一覧を掲載している。 ・各学年の「Word List」(語彙リスト)には小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、小学校で学習した語には記号を付けて示している。	・第1学年では小・中接続単元(P4-10)において、好きなものやできることをたずね合ったり、アルファベットを読み書きしたりするなど、小学校での学習内容を踏まえた活動を設定している。また、本文の各パート等においても、小学校で学習した語を一覧にして示している。
参 考	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり

	発行者の番号 略 称	2 東 書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教 出	38 光 村	61 啓林館
内 容	海外の機関や学校との交流活動について記述してある教材数	9	1	3	1	3	8
	自然・科学、環境を扱っている教材数	5	12	3	7	3	8
	ディスカッションやディベートについて記述してある教材数	3	4	5	4	2	1
	「聞くこと」に焦点を当てた活動の数	55	171	176	109	192	202
	「読むこと」に焦点を当てた活動の数	116	106	100	162	98	103
	「話すこと[やり取り]」に焦点を当てた活動の数	90	106	75	85	109	132
	「話すこと[発表]」に焦点を当てた活動の数	49	22	38	45	54	27
	「書くこと」に焦点を当てた活動の数	73	94	84	36	86	109
	複数の領域を統合したものに焦点を当てた活動の数	9	9	9	9	9	32
構 成 上 の 工 夫	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫（単元構成上の工夫等）	・各単元冒頭での目標（「GOAL」）と単元の内容に関する「目的・場面・状況」の提示、単元末での自己表現活動となる「Unit Activity」の設定、複数単元学習後の「Stage Activity」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「CHECK」（振り返りの視点を示したものの）、「Stage Activity」に設定された「CAN DO CHECK」振り返り、巻末の「CAN-DOリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標（「GOALS」）の提示、単元末での自己表現活動となる「Action」の設定、複数単元学習後の「Our Project」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「できたかな？ GOAL」（振り返りの視点を示したものの）、「Our Project」に設定された振り返り、巻末の「CAN-DOリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標となる活動（「Goal Activity」）の提示、単元末での自己表現活動となる「Goal Activity」の設定、複数単元学習後の「Project」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「ふり返り」（振り返りの視点を示したものの）、「Project」に設定された「ふり返り」、巻末の「What Can I Do?」（Can-Doリスト）により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標（「Goal」）の提示、単元末での自己表現活動となる「Task」の設定、複数単元学習後の「Project」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「Lesson ～をふり返ろう」（振り返りの視点を示したものの）、「Project」に設定された「Project ～をふり返ろう」、巻末の「Can-Do 自己チェックリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標（「Goal」）と単元の内容に関する「目的・場面・状況」の提示、単元末での自己表現活動となる「Goal」の活動の設定、複数単元学習後の「You Can Do It!」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「Goal ふり返り」（振り返りの視点を示したものの）、「You Can Do It!」に設定された「Goal 学期のふり返り」、巻末の「CAN-DO List」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標（「Unit Goal」）の提示、単元末での「Think & Speak」「Think & Write」（自己表現活動）の設定、複数単元学習後の「Project」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「Check」（振り返りの視点を示したものの）、「CAN-DO List」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。
	小学校外国語科との円滑な接続のための工夫（小学校で学習した語彙や表現の扱い方等）	・第1学年では小・中接続単元を設定（P6-10）するとともに、Unit 4までは小学校の活動を振り返るとともに、小学校で聞いた話したりした単語や表現が中心となっている。 ・各学年巻末の「Word List」（語彙リスト）には、小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、「小学校の単語」を一覧にして示している。	・第1学年では小・中接続単元（P7-20）において、新しい仲間へのインタビュー等の英語によるやり取りや、英語の語順を理解する活動など、小学校での学習内容を踏まえた活動を設定している。 ・各学年巻末の「単語と熟語」（語彙リスト）の一覧には、小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、「小学校で学んだ単語」を一覧にして示している。	・第1学年では小・中接続単元（P7-17）を設定するとともに、小学校で学んだ語や表現を一覧にした「My Dictionary」を掲載している。Lesson 4までは小学校で学んだ言語材料を振り返りながら整理し、活用できるようにしている。 ・各学年巻末の「単語の意味」（語彙リスト）には小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、小学校で学習した語には記号を付けて示している。	・第1学年では小・中接続単元（P6-17）を設定するとともに、Lesson 2までは小学校で学んだ表現を多く使用している。 ・各学年巻末の「Word List」（語彙リスト）には小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、「小学校の発信語」を一覧にして示している。	・第1学年では小・中接続単元（P6-19）を設定するとともに、Unit 3までは本文を漫画のセリフ形式にするなど、生徒が徐々に英文に慣れていくよう構成している。また、巻末に小・中接続単元で使われている語の一覧を掲載している。 ・各学年の「Word List」（語彙リスト）には小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、小学校で学習した語には記号を付けて示している。	・第1学年では小・中接続単元（P4-10）において、好きなものやできることをたずね合ったり、アルファベットを読み書きしたりするなど、小学校での学習内容を踏まえた活動を設定している。 ・各学年巻末の「Word List」（語彙リスト）には小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、小学校で学習した語を一覧にして示している。
参 考	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり

	発行者の番号 略 称	2 東 書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教 出	38 光 村	61 啓林館
内 容	海外の機関や学校との交流活動について記述してある教材数	9	1	3	1	3	8
	自然・科学、環境を扱っている教材数	5	12	3	7	3	8
	ディスカッションやディベートについて記述してある教材数	3	4	5	4	2	1
	「聞くこと」に焦点を当てた活動の数	55	171	176	109	192	202
	「読むこと」に焦点を当てた活動の数	116	106	100	162	98	103
	「話すこと[やり取り]」に焦点を当てた活動の数	90	106	75	85	109	132
	「話すこと[発表]」に焦点を当てた活動の数	49	22	38	45	54	27
	「書くこと」に焦点を当てた活動の数	73	94	84	36	86	109
	複数の領域を統合したものに焦点を当てた活動の数	9	9	9	9	9	32
構 成 上 の 工 夫	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫（単元構成上の工夫等）	・各単元冒頭での目標（「GOAL」）と単元の内容に関する「目的・場面・状況」の提示、単元末での自己表現活動となる「Unit Activity」の設定、複数単元学習後の「Stage Activity」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「CHECK」（振り返りの視点を示したものの）、「Stage Activity」に設定された「CAN DO CHECK」振り返り、巻末の「CAN-DO リスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標（「GOALS」）の提示、単元末での自己表現活動となる「Action」の設定、複数単元学習後の「Our Project」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「できたかな？ GOAL」（振り返りの視点を示したものの）、「Our Project」に設定された振り返り、巻末の「CAN-DO リスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標となる活動（「Goal Activity」）の提示、単元末での自己表現活動となる「Goal Activity」の設定、複数単元学習後の「Project」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「ふり返り」（振り返りの視点を示したものの）、「Project」に設定された「ふり返り」、巻末の「What Can I Do?」（Can-Do リスト）により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標（「Goal」）の提示、単元末での自己表現活動となる「Task」の設定、複数単元学習後の「Project」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「Lesson ～ をふり返ろう」（振り返りの視点を示したものの）、「Project」に設定された「Project ～ をふり返ろう」、巻末の「Can-Do 自己チェックリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標（「Goal」）と単元の内容に関する「目的・場面・状況」の提示、単元末での自己表現活動となる「Goal」の活動の設定、複数単元学習後の「You Can Do It!」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「Goal ふり返り」（振り返りの視点を示したものの）、「You Can Do It!」に設定された「Goal 学期のふり返り」、巻末の「CAN-DO List」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標（「Unit Goal」）の提示、単元末での「Think & Speak」「Think & Write」（自己表現活動）の設定、複数単元学習後の「Project」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「Check」（振り返りの視点を示したものの）、巻末の「CAN-DO List」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。
	小学校外国語科との円滑な接続のための工夫（小学校で学習した語彙や表現の扱い方等）	・第1学年では小・中接続単元を設定（P6-10）するとともに、Unit 4までは小学校の活動を振り返るとともに、小学校で聞いた話したりした単語や表現が中心となっている。 ・各学年巻末の「Word List」（語彙リスト）には、小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、「小学校の単語」を一覧にして示している。	・第1学年では小・中接続単元（P7-20）において、新しい仲間へのインタビュー等の英語によるやり取りや、英語の語順を理解する活動など、小学校での学習内容を踏まえた活動を設定している。 ・各学年巻末の「単語と熟語」（語彙リスト）の一覧には、小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、「小学校で学んだ単語」を一覧にして示している。	・第1学年では小・中接続単元（P7-17）を設定するとともに、小学校で学んだ語や表現を一覧にした「My Dictionary」を掲載している。Lesson 4までは小学校で学んだ言語材料を振り返りながら整理し、活用できるようにしている。 ・各学年巻末の「単語の意味」（語彙リスト）には小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、「小学校で学んだ語」には記号を付けて示している。	・第1学年では小・中接続単元（P6-17）を設定するとともに、Lesson 2までは小学校で学んだ表現を多く使用している。 ・各学年巻末の「Word List」（語彙リスト）には小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、「小学校の発信語」を一覧にして示している。	・第1学年では小・中接続単元（P6-19）を設定するとともに、Unit 3までは本文を漫画のセリフ形式にするなど、生徒が徐々に英文に慣れよう構成している。また、巻末に小・中接続単元で使われている語の一覧を掲載している。 ・各学年の「Word List」（語彙リスト）には小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、小学校で学習した語には記号を付けて示している。	・第1学年では小・中接続単元（P4-10）において、好きなものやできることをたずね合ったり、アルファベットを読み書きしたりするなど、小学校での学習内容を踏まえた活動を設定している。 ・各学年巻末の「Word List」（語彙リスト）には小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、小学校で学習した語を一覧にして示している。
参 考	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり

	発行者の番号 略 称	2 東 書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教 出	38 光 村	61 啓林館
内 容	日本の文化・伝統を扱っている教材数	11	6	8	8	7	9
	SDGsを扱っている教材数	16	17	10	14	10	13
	ディスカッションやディベートについて記述し てある教材数	3	4	5	4	2	1
	「聞くこと」に焦点を当てた活動の数	55	171	176	109	192	202
	「読むこと」に焦点を当てた活動の数	116	106	100	162	98	103
	「話すこと[やり取り]」に焦点を当てた活動の 数	90	106	75	85	109	132
	「話すこと[発表]」に焦点を当てた活動の数	49	22	38	45	54	27
	「書くこと」に焦点を当てた活動の数	73	94	84	36	86	109
	複数の領域を統合したものに焦点を当てた 活動の数	9	9	9	9	9	32
構 成 上 の 工 夫	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫 (単元構成上の工夫等)	・各単元冒頭での目標 (「GOAL」)と単元の内容に関する「目的・場面・状況」の提示、単 元末での自己表現活動となる 「Unit Activity」の設定、複数単 元学習後の「Stage Activity」(複 数の領域を統合した活動)の設 定等により、生徒が見通しをも って学習を進められるよう工夫 している。 ・各単元末の「CHECK」(振り返 りの視点を示したものの)、「Stage Activity」に設定された「CAN DO CHECK」(振り返り、巻末の「CAN- DOリスト」により、生徒が学習 の達成状況を振り返り、把握で きるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標 (「GOALS」)の提示、単元末での 自己表現活動となる「Action」の 設定、複数単元学習後の「Our Project」(複数の領域を統合した 活動)の設定等により、生徒が見 通しをもって学習を進められる よう工夫している。 ・各単元末の「できたかな？ GOAL」(振り返りの視点を示した ものの)、「Our Project」に設定さ れた振り返り、巻末の「CAN-DO リスト」により、生徒が学習の達 成状況を振り返り、把握できる よう工夫している。	・各単元冒頭での目標となる活 動(「Goal Activity」)の提示、単 元末での自己表現活動となる 「Goal Activity」の設定、複数単 元学習後の「Project」(複数の領 域を統合した活動)の設定等によ り、生徒が見通しをもって学習 を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「ふり返り」(振り返 りの視点を示したものの)、「 Project」に設定された「ふり返 り」、巻末の「What Can I Do?」 (Can-Doリスト)により、生徒が学 習の達成状況を振り返り、把握 できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標(「Goal」) の提示、単元末での自己表現活 動となる「Task」の設定、複数単 元学習後の「Project」(複数の領 域を統合した活動)の設定等によ り、生徒が見通しをもって学習 を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「Lesson ～をふり 返ろう」(振り返りの視点を示した ものの)、「Project」に設定された 「Project ～をふり返ろう」、巻末 の「Can-Do 自己チェックリスト」 により、生徒が学習の達成状況 を振り返り、把握できるよう工夫 している。	・各単元冒頭での目標(「Goal」) と単元の内容に関する「目的・場 面・状況」の提示、単元末での自 己表現活動となる「Goal」の活動 の設定、複数単元学習後の「You Can Do It!」(複数の領域を統合 した活動)の設定等により、生徒 が見通しをもって学習を進められ るよう工夫している。 ・各単元末の「Goal ふり返り」(振 り返りの視点を示したものの)、「 You Can Do It!」に設定された 「Goal 学期のふり返り」、巻末の 「CAN-DO List」により、生徒が 学習の達成状況を振り返り、把 握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標(「Unit Goal」)の提示、単元末での 「Think & Speak」「Think & Write」 (自己表現活動)の設定、複数単 元学習後の「Project」(複数の領 域を統合した活動)の設定等によ り、生徒が見通しをもって学習 を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「Check」(振り返 りの視点を示したものの)、「 CAN-DO List」により、生徒が 学習の達成状況を振り返り、把 握できるよう工夫している。
	小学校外国語科との円滑な接続のための工夫 (小学校で学習した語彙や表現の扱い 方等)	・第1学年では小・中接続単元を 設定(P6-10)するとともに、Unit 4までは小学校の活動を振り返 るとともに、小学校で聞いた り話したりした単語や表現が 中心となっている。 ・各学年巻末の「Word List」 (語彙リスト)には、小学校 で学習した語が分かるよう記 号を付けている。また、本文 の各パート等においても、「 小学校の単語」を一覧にし て示している。	・第1学年では小・中接続単元 (P7-20)において、新しい仲間 へのインタビュー等の英語による やり取りや、英語の語順を理解 する活動など、小学校での学習 内容を踏まえた活動を設定して いる。 ・各学年巻末の「単語と熟語」(語 彙リスト)の一覧には、小学校 で学習した語が分かるよう記号 を付けている。また、本文の各 パート等においても、「小学校で学 んだ単語」を一覧にして示して いる。	・第1学年では小・中接続単元 (P7-17)を設定するとともに、小 学校で学んだ語や表現を一覧に した「My Dictionary」を掲載し ている。Lesson 4までは小学校 で学んだ言語材料を振り返りな がら整理し、活用できるよう にしている。 ・各学年巻末の「単語の意 味」(語彙リスト)には小 学校で学習した語が分かるよう 記号を付けている。また、本 文の各パート等においても、 小学校で学習した語には記号 を付けて示している。	・第1学年では小・中接続単元 (P6-17)を設定するとともに、 Lesson 2までは小学校で学んだ 表現を多く使用している。 ・各学年巻末の「Word List」 (語彙リスト)には小学校で 学習した語が分かるよう記号 を付けている。また、本文の 各パート等においても、「小 学校の発信語」を一覧にして 示している。	・第1学年では小・中接続単元 (P6-19)を設定するとともに、 Unit 3までは本文を漫画のセリフ 形式にするなど、生徒が徐々に 英文に慣れていくよう構成して いる。また、巻末に小・中接続単 元で使われている語の一覧を掲載 している。 ・各学年の「Word List」(語彙リス ト)には小学校で学習した語が 分かるよう記号を付けている。ま た、本文の各パート等におい ても、小学校で学習した語には 記号を付けて示している。	・第1学年では小・中接続単元 (P4-10)において、好きなものや できることをたずね合ったり、ア ルファベットを読み書きしたりす るなど、小学校での学習内容を 踏まえた活動を設定している。 ・各学年巻末の「Word List」(語 彙リスト)には小学校で学習した 語が分かるよう記号を付けてい る。また、本文の各パート等にお いても、小学校で学習した語を一 覧にして示している。
参 考	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり

	発行者の番号 略 称	2 東 書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教 出	38 光 村	61 啓林館
内 容	SDGsを扱っている教材数	16	17	10	14	10	13
	海外の機関や学校との交流活動について記述してある教材数	9	1	3	1	3	8
	ディスカッションやディベートについて記述してある教材数	3	4	5	4	2	1
	「聞くこと」に焦点を当てた活動の数	55	171	176	109	192	202
	「読むこと」に焦点を当てた活動の数	116	106	100	162	98	103
	「話すこと[やり取り]」に焦点を当てた活動の数	90	106	75	85	109	132
	「話すこと[発表]」に焦点を当てた活動の数	49	22	38	45	54	27
	「書くこと」に焦点を当てた活動の数	73	94	84	36	86	109
	複数の領域を統合したものに焦点を当てた活動の数	9	9	9	9	9	32
構 成 上 の 工 夫	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫（単元構成上の工夫等）	・各単元冒頭での目標（「GOAL」）と単元の内容に関する「目的・場面・状況」の提示、単元末での自己表現活動となる「Unit Activity」の設定、複数単元学習後の「Stage Activity」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「CHECK」（振り返りの視点を示したものの）、「Stage Activity」に設定された「CAN DO CHECK」振り返り、巻末の「CAN-DO リスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標（「GOALS」）の提示、単元末での自己表現活動となる「Action」の設定、複数単元学習後の「Our Project」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「できたかな？ GOAL」（振り返りの視点を示したものの）、「Our Project」に設定された振り返り、巻末の「CAN-DO リスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標となる活動（「Goal Activity」）の提示、単元末での自己表現活動となる「Goal Activity」の設定、複数単元学習後の「Project」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「ふり返り」（振り返りの視点を示したものの）、「Project」に設定された「ふり返り」、巻末の「What Can I Do?」（Can-Do リスト）により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標（「Goal」）の提示、単元末での自己表現活動となる「Task」の設定、複数単元学習後の「Project」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「Lesson ～ をふり返ろう」（振り返りの視点を示したものの）、「Project」に設定された「Project ～ をふり返ろう」、巻末の「Can-Do 自己チェックリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標（「Goal」）と単元の内容に関する「目的・場面・状況」の提示、単元末での自己表現活動となる「Goal」の活動の設定、複数単元学習後の「You Can Do It!」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「Goal ふり返り」（振り返りの視点を示したものの）、「You Can Do It!」に設定された「Goal 学期のふり返り」、巻末の「CAN-DO List」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標（「Unit Goal」）の提示、単元末での「Think & Speak」「Think & Write」（自己表現活動）の設定、複数単元学習後の「Project」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「Check」（振り返りの視点を示したものの）、「CAN-DO List」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。
	小学校外国語科との円滑な接続のための工夫（小学校で学習した語彙や表現の扱い方等）	・第1学年では小・中接続単元を設定（P6-10）するとともに、Unit 4までは小学校の活動を振り返るとともに、小学校で聞いた話したりした単語や表現が中心となっている。 ・各学年巻末の「Word List」（語彙リスト）には、小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、「小学校の単語」を一覧にして示している。	・第1学年では小・中接続単元（P7-20）において、新しい仲間へのインタビュー等の英語によるやり取りや、英語の語順を理解する活動など、小学校での学習内容を踏まえた活動を設定している。 ・各学年巻末の「単語と熟語」（語彙リスト）の一覧には、小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、「小学校で学んだ単語」を一覧にして示している。	・第1学年では小・中接続単元（P7-17）を設定するとともに、小学校で学んだ語や表現を一覧にした「My Dictionary」を掲載している。Lesson 4までは小学校で学んだ言語材料を振り返りながら整理し、活用できるようにしている。 ・各学年巻末の「単語の意味」（語彙リスト）には小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、小学校で学習した語には記号を付けて示している。	・第1学年では小・中接続単元（P6-17）を設定するとともに、Lesson 2までは小学校で学んだ表現を多く使用している。 ・各学年巻末の「Word List」（語彙リスト）には小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、「小学校の発信語」を一覧にして示している。	・第1学年では小・中接続単元（P6-19）を設定するとともに、Unit 3までは本文を漫画のセリフ形式にするなど、生徒が徐々に英文に慣れよう構成している。また、巻末に小・中接続単元で使われている語の一覧を掲載している。 ・各学年の「Word List」（語彙リスト）には小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、小学校で学習した語には記号を付けて示している。	・第1学年では小・中接続単元（P4-10）において、好きなものやできることをたずね合ったり、アルファベットを読み書きしたりするなど、小学校での学習内容を踏まえた活動を設定している。 ・各学年巻末の「Word List」（語彙リスト）には小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、小学校で学習した語を一覧にして示している。
参 考	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり

	発行者の番号 略 称	2 東 書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教 出	38 光 村	61 啓林館
内 容	SDGsを扱っている教材数	16	17	10	14	10	13
	海外の機関や学校との交流活動について記述してある教材数	9	1	3	1	3	8
	ディスカッションやディベートについて記述してある教材数	3	4	5	4	2	1
	「聞くこと」に焦点を当てた活動の数	55	171	176	109	192	202
	「読むこと」に焦点を当てた活動の数	116	106	100	162	98	103
	「話すこと[やり取り]」に焦点を当てた活動の数	90	106	75	85	109	132
	「話すこと[発表]」に焦点を当てた活動の数	49	22	38	45	54	27
	「書くこと」に焦点を当てた活動の数	73	94	84	36	86	109
	複数の領域を統合したものに焦点を当てた活動の数	9	9	9	9	9	32
構 成 上 の 工 夫	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫（単元構成上の工夫等）	・各単元冒頭での目標（「GOAL」）と単元の内容に関する「目的・場面・状況」の提示、単元末での自己表現活動となる「Unit Activity」の設定、複数単元学習後の「Stage Activity」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「CHECK」（振り返りの視点を示したものの）、「Stage Activity」に設定された「CAN DO CHECK」振り返り、巻末の「CAN-DO リスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標（「GOALS」）の提示、単元末での自己表現活動となる「Action」の設定、複数単元学習後の「Our Project」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「できたかな？ GOAL」（振り返りの視点を示したものの）、「Our Project」に設定された振り返り、巻末の「CAN-DO リスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標となる活動（「Goal Activity」）の提示、単元末での自己表現活動となる「Goal Activity」の設定、複数単元学習後の「Project」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「ふり返り」（振り返りの視点を示したものの）、「Project」に設定された「ふり返り」、巻末の「What Can I Do?」（Can-Do リスト）により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標（「Goal」）の提示、単元末での自己表現活動となる「Task」の設定、複数単元学習後の「Project」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「Lesson ～ をふり返ろう」（振り返りの視点を示したものの）、「Project」に設定された「Project ～ をふり返ろう」、巻末の「Can-Do 自己チェックリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標（「Goal」）と単元の内容に関する「目的・場面・状況」の提示、単元末での自己表現活動となる「Goal」の活動の設定、複数単元学習後の「You Can Do It!」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「Goal ふり返り」（振り返りの視点を示したものの）、「You Can Do It!」に設定された「Goal 学期のふり返り」、巻末の「CAN-DO List」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標（「Unit Goal」）の提示、単元末での「Think & Speak」「Think & Write」（自己表現活動）の設定、複数単元学習後の「Project」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「Check」（振り返りの視点を示したものの）、巻末の「CAN-DO List」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。
	小学校外国語科との円滑な接続のための工夫（小学校で学習した語彙や表現の扱い方等）	・第1学年では小・中接続単元を設定（P6-10）するとともに、Unit 4までは小学校の活動を振り返るとともに、小学校で聞いた話したりした単語や表現が中心となっている。 ・各学年巻末の「Word List」（語彙リスト）には、小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、「小学校の単語」を一覧にして示している。	・第1学年では小・中接続単元（P7-20）において、新しい仲間へのインタビュー等の英語によるやり取りや、英語の語順を理解する活動など、小学校での学習内容を踏まえた活動を設定している。 ・各学年巻末の「単語と熟語」（語彙リスト）の一覧には、小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、「小学校で学んだ単語」を一覧にして示している。	・第1学年では小・中接続単元（P7-17）を設定するとともに、小学校で学んだ語や表現を一覧にした「My Dictionary」を掲載している。Lesson 4までは小学校で学んだ言語材料を振り返りながら整理し、活用できるようにしている。 ・各学年巻末の「単語の意味」（語彙リスト）には小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、「小学校で学んだ語」を一覧にして示している。	・第1学年では小・中接続単元（P6-17）を設定するとともに、Lesson 2までは小学校で学んだ表現を多く使用している。 ・各学年巻末の「Word List」（語彙リスト）には小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、「小学校の発信語」を一覧にして示している。	・第1学年では小・中接続単元（P6-19）を設定するとともに、Unit 3までは本文を漫画のセリフ形式にするなど、生徒が徐々に英文に慣れていくよう構成している。また、巻末に小・中接続単元で使われている語の一覧を掲載している。 ・各学年の「Word List」（語彙リスト）には小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、小学校で学習した語には記号を付けて示している。	・第1学年では小・中接続単元（P4-10）において、好きなものやできることをたずね合ったり、アルファベットを読み書きしたりするなど、小学校での学習内容を踏まえた活動を設定している。また、本文の各パート等においても、小学校で学習した語を一覧にして示している。
参 考	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり

	発行者の番号 略 称	2 東 書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教 出	38 光 村	61 啓林館
内 容	海外の機関や学校との交流活動について記述してある教材数	9	1	3	1	3	8
	自然・科学、環境を扱っている教材数	5	12	3	7	3	8
	ディスカッションやディベートについて記述してある教材数	3	4	5	4	2	1
	「聞くこと」に焦点を当てた活動の数	55	171	176	109	192	202
	「読むこと」に焦点を当てた活動の数	116	106	100	162	98	103
	「話すこと[やり取り]」に焦点を当てた活動の数	90	106	75	85	109	132
	「話すこと[発表]」に焦点を当てた活動の数	49	22	38	45	54	27
	「書くこと」に焦点を当てた活動の数	73	94	84	36	86	109
	複数の領域を統合したものに焦点を当てた活動の数	9	9	9	9	9	32
構 成 上 の 工 夫	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫（単元構成上の工夫等）	・各単元冒頭での目標（「GOAL」）と単元の内容に関する「目的・場面・状況」の提示、単元末での自己表現活動となる「Unit Activity」の設定、複数単元学習後の「Stage Activity」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「CHECK」（振り返りの視点を示したものの）、「Stage Activity」に設定された「CAN DO CHECK」振り返り、巻末の「CAN-DO リスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標（「GOALS」）の提示、単元末での自己表現活動となる「Action」の設定、複数単元学習後の「Our Project」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「できたかな？ GOAL」（振り返りの視点を示したものの）、「Our Project」に設定された振り返り、巻末の「CAN-DO リスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標となる活動（「Goal Activity」）の提示、単元末での自己表現活動となる「Goal Activity」の設定、複数単元学習後の「Project」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「ふり返り」（振り返りの視点を示したものの）、「Project」に設定された「ふり返り」、巻末の「What Can I Do?」（Can-Do リスト）により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標（「Goal」）の提示、単元末での自己表現活動となる「Task」の設定、複数単元学習後の「Project」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「Lesson ～ をふり返ろう」（振り返りの視点を示したものの）、「Project」に設定された「Project ～ をふり返ろう」、巻末の「Can-Do 自己チェックリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標（「Goal」）と単元の内容に関する「目的・場面・状況」の提示、単元末での自己表現活動となる「Goal」の活動の設定、複数単元学習後の「You Can Do It!」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「Goal ふり返り」（振り返りの視点を示したものの）、「You Can Do It!」に設定された「Goal 学期のふり返り」、巻末の「CAN-DO List」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標（「Unit Goal」）の提示、単元末での「Think & Speak」「Think & Write」（自己表現活動）の設定、複数単元学習後の「Project」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「Check」（振り返りの視点を示したものの）、巻末の「CAN-DO List」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。
	小学校外国語科との円滑な接続のための工夫（小学校で学習した語彙や表現の扱い方等）	・第1学年では小・中接続単元を設定（P6-10）するとともに、Unit 4までは小学校の活動を振り返るとともに、小学校で聞いた話したりした単語や表現が中心となっている。 ・各学年巻末の「Word List」（語彙リスト）には、小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、「小学校の単語」を一覧にして示している。	・第1学年では小・中接続単元（P7-20）において、新しい仲間へのインタビュー等の英語によるやり取りや、英語の語順を理解する活動など、小学校での学習内容を踏まえた活動を設定している。 ・各学年巻末の「単語と熟語」（語彙リスト）の一覧には、小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、「小学校で学んだ単語」を一覧にして示している。	・第1学年では小・中接続単元（P7-17）を設定するとともに、小学校で学んだ語や表現を一覧にした「My Dictionary」を掲載している。Lesson 4までは小学校で学んだ言語材料を振り返りながら整理し、活用できるようにしている。 ・各学年巻末の「単語の意味」（語彙リスト）には小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、小学校で学習した語には記号を付けて示している。	・第1学年では小・中接続単元（P6-17）を設定するとともに、Lesson 2までは小学校で学んだ表現を多く使用している。 ・各学年巻末の「Word List」（語彙リスト）には小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、「小学校の発信語」を一覧にして示している。	・第1学年では小・中接続単元（P6-19）を設定するとともに、Unit 3までは本文を漫画のセリフ形式にするなど、生徒が徐々に英文に慣れよう構成している。また、巻末に小・中接続単元で使われている語の一覧を掲載している。 ・各学年の「Word List」（語彙リスト）には小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、小学校で学習した語には記号を付けて示している。	・第1学年では小・中接続単元（P4-10）において、好きなものやできることをたずね合ったり、アルファベットを読み書きしたりするなど、小学校での学習内容を踏まえた活動を設定している。 ・各学年巻末の「Word List」（語彙リスト）には小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、小学校で学習した語を一覧にして示している。
参 考	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり

	発行者の番号 略 称	2 東 書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教 出	38 光 村	61 啓林館
内 容	日本の文化・伝統を扱っている教材数	11	6	8	8	7	9
	海外の機関や学校との交流活動について記述してある教材数	9	1	3	1	3	8
	ディスカッションやディベートについて記述してある教材数	3	4	5	4	2	1
	「聞くこと」に焦点を当てた活動の数	55	171	176	109	192	202
	「読むこと」に焦点を当てた活動の数	116	106	100	162	98	103
	「話すこと[やり取り]」に焦点を当てた活動の数	90	106	75	85	109	132
	「話すこと[発表]」に焦点を当てた活動の数	49	22	38	45	54	27
	「書くこと」に焦点を当てた活動の数	73	94	84	36	86	109
	複数の領域を統合したものに焦点を当てた活動の数	9	9	9	9	9	32
構 成 上 の 工 夫	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫（単元構成上の工夫等）	・各単元冒頭での目標（「GOAL」）と単元の内容に関する「目的・場面・状況」の提示、単元末での自己表現活動となる「Unit Activity」の設定、複数単元学習後の「Stage Activity」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「CHECK」（振り返りの視点を示したものの）、「Stage Activity」に設定された「CAN DO CHECK」振り返り、巻末の「CAN-DO リスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標（「GOALS」）の提示、単元末での自己表現活動となる「Action」の設定、複数単元学習後の「Our Project」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「できたかな？ GOAL」（振り返りの視点を示したものの）、「Our Project」に設定された振り返り、巻末の「CAN-DO リスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標となる活動（「Goal Activity」）の提示、単元末での自己表現活動となる「Goal Activity」の設定、複数単元学習後の「Project」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「ふり返り」（振り返りの視点を示したものの）、「Project」に設定された「ふり返り」、巻末の「What Can I Do?」（Can-Do リスト）により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標（「Goal」）の提示、単元末での自己表現活動となる「Task」の設定、複数単元学習後の「Project」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「Lesson ～ をふり返ろう」（振り返りの視点を示したものの）、「Project」に設定された「Project ～ をふり返ろう」、巻末の「Can-Do 自己チェックリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標（「Goal」）と単元の内容に関する「目的・場面・状況」の提示、単元末での自己表現活動となる「Goal」の活動の設定、複数単元学習後の「You Can Do It!」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「Goal ふり返り」（振り返りの視点を示したものの）、「You Can Do It!」に設定された「Goal 学期のふり返り」、巻末の「CAN-DO List」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標（「Unit Goal」）の提示、単元末での「Think & Speak」「Think & Write」（自己表現活動）の設定、複数単元学習後の「Project」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「Check」（振り返りの視点を示したものの）、巻末の「CAN-DO List」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。
	小学校外国語科との円滑な接続のための工夫（小学校で学習した語彙や表現の扱い方等）	・第1学年では小・中接続単元を設定（P6-10）するとともに、Unit 4までは小学校の活動を振り返るとともに、小学校で聞いた話したりした単語や表現が中心となっている。 ・各学年巻末の「Word List」（語彙リスト）には、小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、「小学校の単語」を一覧にして示している。	・第1学年では小・中接続単元（P7-20）において、新しい仲間へのインタビュー等の英語によるやり取りや、英語の語順を理解する活動など、小学校での学習内容を踏まえた活動を設定している。 ・各学年巻末の「単語と熟語」（語彙リスト）の一覧には、小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、「小学校で学んだ単語」を一覧にして示している。	・第1学年では小・中接続単元（P7-17）を設定するとともに、小学校で学んだ語や表現を一覧にした「My Dictionary」を掲載している。Lesson 4までは小学校で学んだ言語材料を振り返りながら整理し、活用できるようにしている。 ・各学年巻末の「単語の意味」（語彙リスト）には小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、「小学校で学んだ語」には記号を付けて示している。	・第1学年では小・中接続単元（P6-17）を設定するとともに、Lesson 2までは小学校で学んだ表現を多く使用している。 ・各学年巻末の「Word List」（語彙リスト）には小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、「小学校の発信語」を一覧にして示している。	・第1学年では小・中接続単元（P6-19）を設定するとともに、Unit 3までは本文を漫画のセリフ形式にするなど、生徒が徐々に英文に慣れていくよう構成している。また、巻末に小・中接続単元で使われている語の一覧を掲載している。 ・各学年の「Word List」（語彙リスト）には小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、小学校で学習した語には記号を付けて示している。	・第1学年では小・中接続単元（P4-10）において、好きなものやできることをたずね合ったり、アルファベットを読み書きしたりするなど、小学校での学習内容を踏まえた活動を設定している。 ・各学年巻末の「Word List」（語彙リスト）には小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、小学校で学習した語を一覧にして示している。
参 考	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり

	発行者の番号 略 称	2 東 書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教 出	38 光 村	61 啓林館
内 容	SDGsを扱っている教材数	16	17	10	14	10	13
	海外の機関や学校との交流活動について記述してある教材数	9	1	3	1	3	8
	ディスカッションやディベートについて記述してある教材数	3	4	5	4	2	1
	「聞くこと」に焦点を当てた活動の数	55	171	176	109	192	202
	「読むこと」に焦点を当てた活動の数	116	106	100	162	98	103
	「話すこと[やり取り]」に焦点を当てた活動の数	90	106	75	85	109	132
	「話すこと[発表]」に焦点を当てた活動の数	49	22	38	45	54	27
	「書くこと」に焦点を当てた活動の数	73	94	84	36	86	109
	複数の領域を統合したものに焦点を当てた活動の数	9	9	9	9	9	32
構 成 上 の 工 夫	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫（単元構成上の工夫等）	・各単元冒頭での目標（「GOAL」）と単元の内容に関する「目的・場面・状況」の提示、単元末での自己表現活動となる「Unit Activity」の設定、複数単元学習後の「Stage Activity」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「CHECK」（振り返りの視点を示したものの）、「Stage Activity」に設定された「CAN DO CHECK」振り返り、巻末の「CAN-DOリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標（「GOALS」）の提示、単元末での自己表現活動となる「Action」の設定、複数単元学習後の「Our Project」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「できたかな？ GOAL」（振り返りの視点を示したものの）、「Our Project」に設定された振り返り、巻末の「CAN-DOリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標となる活動（「Goal Activity」）の提示、単元末での自己表現活動となる「Goal Activity」の設定、複数単元学習後の「Project」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「ふり返り」（振り返りの視点を示したものの）、「Project」に設定された「ふり返り」、巻末の「What Can I Do?」（Can-Doリスト）により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標（「Goal」）の提示、単元末での自己表現活動となる「Task」の設定、複数単元学習後の「Project」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「Lesson ～ をふり返ろう」（振り返りの視点を示したものの）、「Project」に設定された「Project ～ をふり返ろう」、巻末の「Can-Do 自己チェックリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標（「Goal」）と単元の内容に関する「目的・場面・状況」の提示、単元末での自己表現活動となる「Goal」の活動の設定、複数単元学習後の「You Can Do It!」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「Goal ふり返り」（振り返りの視点を示したものの）、「You Can Do It!」に設定された「Goal 学期のふり返り」、巻末の「CAN-DO List」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標（「Unit Goal」）の提示、単元末での「Think & Speak」「Think & Write」（自己表現活動）の設定、複数単元学習後の「Project」（複数の領域を統合した活動）の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「Check」（振り返りの視点を示したものの）、巻末の「CAN-DO List」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。
	小学校外国語科との円滑な接続のための工夫（小学校で学習した語彙や表現の扱い方等）	・第1学年では小・中接続単元を設定（P6-10）するとともに、Unit 4までは小学校の活動を振り返るとともに、小学校で聞いた話したりした単語や表現が中心となっている。 ・各学年巻末の「Word List」（語彙リスト）には、小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、「小学校の単語」を一覧にして示している。	・第1学年では小・中接続単元（P7-20）において、新しい仲間へのインタビュー等の英語によるやり取りや、英語の語順を理解する活動など、小学校での学習内容を踏まえた活動を設定している。 ・各学年巻末の「単語と熟語」（語彙リスト）の一覧には、小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、「小学校で学んだ単語」を一覧にして示している。	・第1学年では小・中接続単元（P7-17）を設定するとともに、小学校で学んだ語や表現を一覧にした「My Dictionary」を掲載している。Lesson 4までは小学校で学んだ言語材料を振り返りながら整理し、活用できるようにしている。 ・各学年巻末の「単語の意味」（語彙リスト）には小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、「小学校で学んだ語」を一覧にして示している。	・第1学年では小・中接続単元（P6-17）を設定するとともに、Lesson 2までは小学校で学んだ表現を多く使用している。 ・各学年巻末の「Word List」（語彙リスト）には小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、「小学校の発信語」を一覧にして示している。	・第1学年では小・中接続単元（P6-19）を設定するとともに、Unit 3までは本文を漫画のセリフ形式にするなど、生徒が徐々に英文に慣れよう構成している。また、巻末に小・中接続単元で使われている語の一覧を掲載している。 ・各学年の「Word List」（語彙リスト）には小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、小学校で学習した語には記号を付けて示している。	・第1学年では小・中接続単元（P4-10）において、好きなものやできることをたずね合ったり、アルファベットを読み書きしたりするなど、小学校での学習内容を踏まえた活動を設定している。 ・各学年巻末の「Word List」（語彙リスト）には小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、小学校で学習した語を一覧にして示している。
参 考	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり

	発行者の番号 略 称	2 東 書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教 出	38 光 村	61 啓林館
内 容	日本の文化・伝統を扱っている教材数	11	6	8	8	7	9
	SDGsを扱っている教材数	16	17	10	14	10	13
	海外の機関や学校との交流活動について記述してある教材数	9	1	3	1	3	8
	「聞くこと」に焦点を当てた活動の数	55	171	176	109	192	202
	「読むこと」に焦点を当てた活動の数	116	106	100	162	98	103
	「話すこと[やり取り]」に焦点を当てた活動の数	90	106	75	85	109	132
	「話すこと[発表]」に焦点を当てた活動の数	49	22	38	45	54	27
	「書くこと」に焦点を当てた活動の数	73	94	84	36	86	109
	複数の領域を統合したものに焦点を当てた活動の数	9	9	9	9	9	32
構 成 上 の 工 夫	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫 (単元構成上の工夫等)	・各単元冒頭での目標 (「GOAL」)と単元の内容に関する「目的・場面・状況」の提示、単元末での自己表現活動となる「Unit Activity」の設定、複数単元学習後の「Stage Activity」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「CHECK」(振り返りの視点を示したものの)、「Stage Activity」に設定された「CAN DO CHECK」振り返り、巻末の「CAN-DO リスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標 (「GOALS」)の提示、単元末での自己表現活動となる「Action」の設定、複数単元学習後の「Our Project」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「できたかな? GOAL」(振り返りの視点を示したものの)、「Our Project」に設定された振り返り、巻末の「CAN-DO リスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標となる活動 (「Goal Activity」)の提示、単元末での自己表現活動となる「Goal Activity」の設定、複数単元学習後の「Project」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「ふり返り」(振り返りの視点を示したものの)、「Project」に設定された「ふり返り」、巻末の「What Can I Do?」(Can-Do リスト)により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標(「Goal」)の提示、単元末での自己表現活動となる「Task」の設定、複数単元学習後の「Project」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「Lesson ～をふり返ろう」(振り返りの視点を示したものの)、「Project」に設定された「Project ～をふり返ろう」、巻末の「Can-Do 自己チェックリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標(「Goal」)と単元の内容に関する「目的・場面・状況」の提示、単元末での自己表現活動となる「Goal」の活動の設定、複数単元学習後の「You Can Do It!」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「Goal ふり返り」(振り返りの視点を示したものの)、「You Can Do It!」に設定された「Goal 学期のふり返り」、巻末の「CAN-DO List」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標(「Unit Goal」)の提示、単元末での「Think & Speak」「Think & Write」(自己表現活動)の設定、複数単元学習後の「Project」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「Check」(振り返りの視点を示したものの)、「CAN-DO List」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。
	小学校外国語科との円滑な接続のための工夫 (小学校で学習した語彙や表現の扱い方等)	・第1学年では小・中接続単元を設定(P6-10)するとともに、Unit 4までは小学校の活動を振り返るとともに、小学校で聞いた話したりした単語や表現が中心となっている。 ・各学年巻末の「Word List」(語彙リスト)には、小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、「小学校の単語」を一覧にして示している。	・第1学年では小・中接続単元(P7-20)において、新しい仲間へのインタビュー等の英語によるやり取りや、英語の語順を理解する活動など、小学校での学習内容を踏まえた活動を設定している。 ・各学年巻末の「単語と熟語」(語彙リスト)の一覧には、小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、「小学校で学んだ単語」を一覧にして示している。	・第1学年では小・中接続単元(P7-17)を設定するとともに、小学校で学んだ語や表現を一覧にした「My Dictionary」を掲載している。Lesson 4までは小学校で学んだ言語材料を振り返りながら整理し、活用できるようにしている。 ・各学年巻末の「単語の意味」(語彙リスト)には小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、小学校で学習した語には記号を付けて示している。	・第1学年では小・中接続単元(P6-17)を設定するとともに、Lesson 2までは小学校で学んだ表現を多く使用している。 ・各学年巻末の「Word List」(語彙リスト)には小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、「小学校の発信語」を一覧にして示している。	・第1学年では小・中接続単元(P6-19)を設定するとともに、Unit 3までは本文を漫画のセリフ形式にするなど、生徒が徐々に英文に慣れていくよう構成している。また、巻末に小・中接続単元で使われている語の一覧を掲載している。 ・各学年の「Word List」(語彙リスト)には小学校で学習した語が分かるよう記号を付けている。また、本文の各パート等においても、小学校で学習した語には記号を付けて示している。	・第1学年では小・中接続単元(P4-10)において、好きなものやできることをたずね合ったり、アルファベットを読み書きしたりするなど、小学校での学習内容を踏まえた活動を設定している。また、本文の各パート等においても、小学校で学習した語を一覧にして示している。
参 考	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり

ア デジタル教科書の扱い

発行者	取り上げられた単元名（学年）	a 拡大機能	b 音声機能 ※ 1	c 動画機能 ※ 2	d 書き込み機能	e 保存機能	備考
東 書	Unit 2 What is local food?	有	有	有	有	有	・ 単語・文の個別再生機能有 ※ 3 ・ 読み上げ機能有 ※ 4 ・ デジタル用例辞典収録
開隆堂	PROGRAM 3 Taste of Culture	有	有	有	有	有	・ 単語・文の個別再生機能有 ・ 読み上げ機能有
三省堂	Lesson 5 Visiting Australia	有	有	有	有	有	・ 単語・文の個別再生機能有 ・ 読み上げ機能有 ・ 辞書機能有
教 出	Lesson 3 Design Makes Change	有	有	有	有	有	・ 単語・文の個別再生機能有 ・ 読み上げ機能有 ・ 録音・再生機能有 ※ 5
光 村	Unit 7 Working Together	有	有	有	有	有	・ 単語・文の個別再生機能有 ・ 読み上げ機能有 ・ 録音・再生機能有
啓林館	Unit 2 Festivals in the World	有	有	有	有	有	・ 単語・文の個別再生機能有 ・ 読み上げ機能有

※ 1 「b 音声機能」では、教科書の本文や活動例、歌やチャンツ等の音声を聞くことが可能かを調査している。

※ 2 「c 動画機能」では、活動例や学習の参考となる情報を、アニメーションや実写映像等で視聴することが可能かを調査している。

※ 3 「単語・文の個別再生機能」とは、教科書に記載されている英語の単語や文を個別に選択（タッチ）すると、その単語・文のみを再生する機能である。

※ 4 「読み上げ機能」とは、教科書に記載されている文章（日本語、英語を含む。）を、音声で読み上げる機能のことである。

※ 5 「録音・再生機能」とは、児童が自分の音声を録音・再生することができる機能のことである。